

ヒゲブトハナカミキリ コウチュウ目カミキリムシ科

Pachypidonia bodemeyeri (Pic)

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー なし

選定理由

得られた個体数が少ないこと、および幼虫の発生場所が自然環境の良い森林に存在する数少ない大木の樹洞であるという特殊性があるため、生息地が限られる。

形態

体長は13~16mm。中型のハナカミキリで、体形は太く短い。体色は頭部および前胸背が赤褐色、上翅は黒く、赤味を帯びる個体もある。触角は太く、その長さはオスで上翅の2/3にとどく程度である。

国内分布

北海道、本州、四国、九州。

県内分布

白山市。

生態

ブナ帯に生息する。本種は、繁殖期のごく短い一時期を除き、大木の樹洞内で過ごす。成虫は7月中旬~8月中旬にトチやブナの樹洞内で見られ、幼虫は樹洞内部の腐朽部を食する。他県ではミズメやドロノキも食樹として記録されている。

生息地の条件

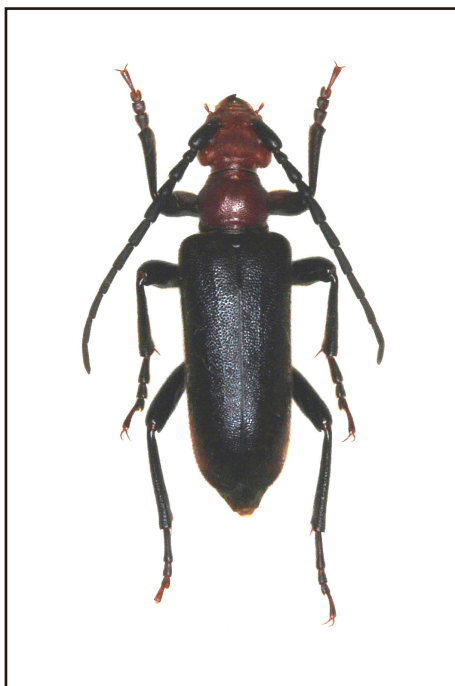
ブナ原生林内にブナやトチなどの古木の樹洞があることが生息条件であり、人手の入らない大木の残る豊かな森林が重要といえる。

生存の危機

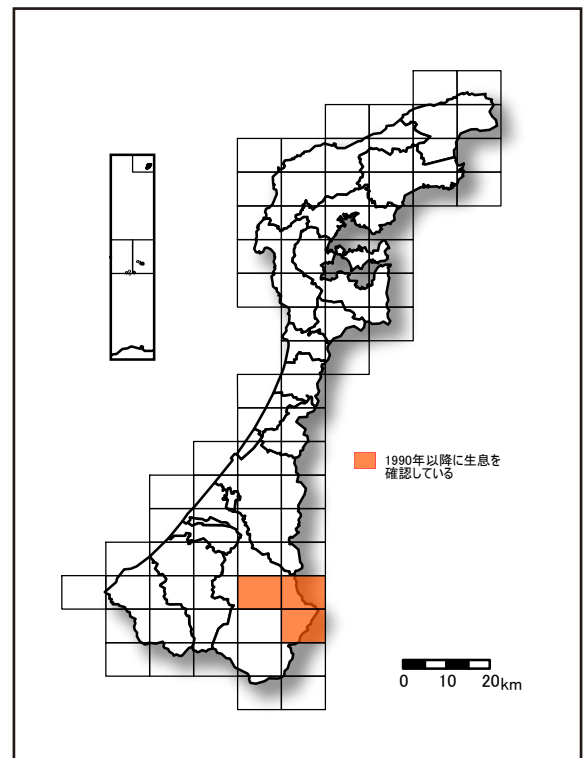
全国的にも、樹洞を有する大木の残る豊かな森林環境が減少しており、ブナ原生林の保全が重要である。先人の知恵で、谷間の村を雪崩から防ぐため、斜面の樹木を切らずに残された原生林が、本種の生息場所になっている地域がある。このことは、人と自然との共生の一例であり、樹木を切り、崖をコンクリートで固め、鉄柵で雪崩を防ごうとばかり考えないでほしいものである。(A)

参考文献

江崎功二郎・八神徳彦 2005. 石川県内で採集例が少ないカミキリムシおよびコメツキムシの記録とつくりばち, (73) : 20.



標本提供者: 井村正行



県内の分布